

閉 会 の 挨拶

高知女子大学看護学会運営委員長

山 崎 美 恵 子

13回、14回学会では「人間の発達」をメインテーマにとりあげてきました。そのテーマに決まりました経緯は総会の時に少しご報告いたしましたけれども「看護教育を考える」次いで「看護概念を考える」という上位の概念をメインテーマにして学会を進めてきましたが、13回学会から中位の概念を取りあげ、それも、あちこちの勉強会や学会で多くとりあげられているテーマは避けて、あまりとりあげられていない概念を取りあげてみようじゃないかというのが基本的な姿勢でした。

今回のメインテーマ「人間の発達」につきましては、今、南先生がシンポジウムの司会の締めくくりとして、本当に心に残るような、この学会の意味ある言葉として、締めくくっていただいたように思います。もう繰り返しはいたしませんけれども、みんなの頭の中に印象づけられたのではないかと思います。

昨日、今日の研究発表、シンポジウムをとおして、同窓生同士でおもいきってディスカッションができ、何か盛り上がりを感じました。

お互いに研究の場にいる人達には、研究するための糸口に、実践の場にいる人達には、南先生のおっしゃいました「働きかけ論」、そのような糸口になったのではないかと思います。

次回の学会からは「保健行動」という概念に取り組むことになりましたけれども、ますます私達の学会として、同窓生の学会として、このユニークさを発揮して、発展していったほしいなと思います。

以上をもちまして、閉会の挨拶としたいと思います。今回で半数の運営委員の任期が無事に終わりました。会員の皆様のご協力のおかげだと思います。本当にありがとうございました。